SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

まえがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長沼, さやか, 大野, 旭, 小松, かおり メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/8064

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、例年 6 月に 1 週間ほど静岡県内の調査地に泊まり込み、その土地の暮らしや社会について学ぶフィールドワーク実習を実施しています。参加するのは本コースに在籍する学部 3 年生です。調査地は教員が選定しますが、その後は学生が文献や統計、地図などの資料を収集し、現地を下見するなど事前準備を進め、本調査にのぞみます。

今年度は、駿河湾に面した海辺の町・静岡市駿河区用宗地区を訪問しました。用宗は、静岡大学静岡キャンパスから車で 20 分圏内に所在しています。じつは、本コースでフィールドワーク実習を実施して以来、これほど近い場所での調査は初めてでした。実習期間は 6 月 8 日から 14 日までの 6 泊 7 日間で、教員 3 名と学生 9 名（秋山陽香・天野浩二・海野未樹・高源・行田望音・小林亮太・戸塚翔・李玉潔・渡邊萌子）の 12 名が、用宗地区に宿泊しながら現地調査を行いました。また、実習の最終日にあたる 6 月 14 日には、用宗公民館で現地発表会を開催し、地域の方々に調査の成果を聴いていただきました。

用宗地区は、駿河湾でとれるシラスの水揚げと加工で有名な用宗漁港があることから、漁村や港町のイメージを持たれがちですが、かつては山の斜面を利用した果樹栽培などの農業もさかんでした。付近には安倍川が流れ、東海道の宿場からも近く、水路・陸路の便に優れており、江戸時代には幕府の直轄地とされていました。そして現在、静岡駅から電車で 2 駅の距離にある用宗地区は、およそ 4,500 人が暮らす近郊の住宅地となっています。こうしてみると、過疎化とは縁遠いかにみえる用宗ですが、近年では、海がもたらす自然災害への不安、若年層の都市部への転出などを背景に、人口減少と高齢化が進みつつあります。フィールドワークでは、こうした現象にともなう緩やかな社会変化、それらに対応するために地域の人々が始めた取り組み、海とともにある用宗での暮らしについて学ぶことができました。それと同時に、現代社会において文化人類学が向き合うべき「身近な場所にある異文化」を改めて知る機会ともなりました。

調査にあたっては多くの方々にご支援を賜りました。用宗町内会の皆さんには、学生の聞き取り調査にご協力いただくとともに、地図や文献など貴重な資料を提供していただきました。宿泊先の柳家旅館さんには、寝食以外に勉強部屋をご用意いただくなど、わがままを聞いていただきました。静岡県清水漁業協同組合用宗支所の皆さん、用宗魚仲買人水産加工業協同組合の方々、用宗で活動する地域おこし団体の皆さんにもたいへんお世話になりました。紙幅の関係上、お名前を申し上げられなかった皆様をふくめて、この場で厚くお礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記の URL からもご覧いただけます。

http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/

平成 26 年 12 月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース
長沼　さやか
大野　旭（楊　梅英）
小松　かおり